第45回産研フォーラム　聴講無料

Gゼロ時代の中国ビジネス
―日中国交正常化50周年記念―

日　時：2022年12月12日（月）　9:20～17:10

会　場：早稲田大学　大隈記念講堂（対面300名まで）
※オンライン聴講可

■開催趣旨

本年は日中国交正常化50周年にあたる。この間、中国社会は滄桑の変ともいうべき大きな変貌を遂げた。2021年現在、中国のGDPは、日本の３倍を越え、米国の経済規模に迫る勢いをみせている。中国の急速な経済成長により、私たちは「パクス・アメリカーナ」（米国による平和）の終焉と「Gゼロ」時代の到来を予感せざるをえない。私たちは衆知を結集し、日本が今後歩むべき道筋を探らねばならない。

1989年11月のベルリンの壁崩壊以来、30年余りの間、私たちは米国を中心とする自由主義経済のグローバル化のもとで豊かさを享受してきた。同年に起きた天安門事件で中国に対する経済制裁を行ったものの、2001年にはWTO加盟も果たした中国が自由主義経済の枠組みのなかで発展してゆくことを疑わなかった。

だが、10年来、中国は経済的実力を背景に東・南シナ海への海洋進出を着々と進め、東アジアにおけるパワーバランスを大きく変えようとしている。習近平政権が強力に推進する一帯一路構想は、中国によるグローバル経済戦略であり、東アジアだけでなく、中央アジアを経由してヨーロッパへと勢力を浸透させる戦略でもある。ロシアによるウクライナ侵攻を契機として経済のブロック化はますます鮮明になったが、中国からカザフスタン、ロシアを経由して東欧を抜けてドイツまで届く中欧班列（CHINA-EUROPE Rail）ルートは経済ブロックの新たな胎動を示している。

如上の認識に立脚し、日本はどのように中国でビジネスを展開して行くべきかについてビジネス、メディア、アカデミックの各界からご報告いただき、日本の進むべき道を考える機会としたい。

※外務省　日中国交正常化50周年認定事業

対　　象：学生、教職員、一般どなたでも聴講いただけます。聴講無料。
申 込 方 法：対面聴講ご希望の方は対面聴講QRコード、オンライン聴講ご希望の方はZoom聴講QRコードからそれぞれお申込みください。
早稲田大学産業経営研究所HP（https://www.waseda.jp/fcom/riba/）からもお申込みができます。
演題、タイムテーブル等は同HPに掲載しております。
申込み締切：2022年12月5日（月）※定員に達し次第締切らせていただきます。

問い合わせ先：早稲田大学産業経営研究所　〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス11号館3F
TEL:03-3203-9857　E-mail:riba@list.waseda.jp

第45回産研フォーラム

Gゼロ時代の中国ビジネス
―日中国交正常化50周年記念―

日　　時：2022年12月12日（月）　9：20～17：10

会　　場：早稲田大学　大隈記念講堂

総合司会：尹　　景春（早稲田大学教授）

■ 開会式：9：20～10：00

1．開会の辞　　中出　　哲（早稲田大学産業経営研究所長）

2．来賓挨拶　「日中国交正常化50周年に寄せて」
　　岩本　桂一（外務省アジア大洋州局審議官）

3．問題提起　　小川　利康（早稲田大学教授）

■ アカデミック：10：00～11：50（ファシリテーター：中村みどり 早稲田大学教授）

1．「百年ののち、いま何が問題なのか？ ―中国共産党史の立場から―」
　　江田　憲治（京都大学名誉教授）

2．「毛沢東の個人崇拝と魯迅」
　　長堀　祐造（慶應義塾大学名誉教授）

■ メディア：13：00～14：50（ファシリテーター：小川　利康 早稲田大学教授）

1．「習近平長期政権の課題と対外関係」
　　中澤　克二（日本経済新聞編集委員兼論説委員）

2．「ゼロコロナの自縄自縛　中国経済の現場から報告」
　　西山　明宏（朝日新聞中国総局記者：オンライン参加）

■ ビジネス＆リサーチ：15：00～16：50

（ファシリテーター：マルハニチロ㈱海外ユニット海外戦略販売部海外事業二課副部長役 田代　祐基）

1．「中国ビジネスの現状と今後の課題」
　　水田　賢治（日本貿易振興機構上海事務所所長：オンライン参加）

2．「次世代の日中関係発展のために―中国ビジネス30年の経験から」
　　池添　洋一（伊藤忠（中国）集団董事長、中国日本商会会長）

■ 閉会式：16：50～17：10

1．総　　括　　小川　利康（早稲田大学教授）

2．閉会の辞　　横山　将義（早稲田大学商学学術院長）

※外務省　日中国交正常化50周年認定事業

講演者の演題・プロフィール（登壇順）

岩本　桂一（外務省アジア大洋州局審議官）

来賓挨拶：**日中国交正常化50周年に寄せて**

1988年東京外国語大学卒業、読売新聞社入社。1990年外務省に転じ，中国、米国、ラオスでの大使館勤務のほか、東南アジア、経済連携（TPP交渉等）、中国・モンゴル担当の各課長を歴任。昨年12月よりアジア大洋州局勤務。

江田　憲治（京都大学名誉教授）

演題：**百年ののち、いま何が問題なのか？**
―中国共産党史の立場から―

1985年京都大学大学院文学研究科研究指導認定退学、同学人文科学研究所、京都産業大学外国語学部、日本大学文理学部を経て京都大学大学院人間・環境学研究科教授。2021年退職。

長堀　祐造（慶應義塾大学名誉教授）

演題：**毛沢東の個人崇拝と魯迅**

東京大学文学部卒、早稲田大学大学院博士課程中退、桜美林大学助教授、慶應義塾大学教授を経て現在に到る。博士（文学）（慶應義塾大学）。主著に『魯迅とトロツキー』（平凡社2011年）、『世界史リブレット　陳独秀』（山川出版社2015年）、訳著に莫言『変』（明石書店2013年）。共訳著に鄭超麟『初期中国共産党群像』１・２、『陳独秀文集』第１・３巻（各々平凡社東洋文庫2003年、2016~17年）、王凡西『毛沢東思想論稿』（柘植書房2022年）等。

中澤　克二（日本経済新聞編集委員兼論説委員）

演題：**習近平長期政権の課題と対外関係**

宮城県仙台市出身。早稲田大学第一文学部卒。1987年日本経済新聞社入社。98年から３年間北京駐在。東日本大震災の際は、震災特別取材班総括デスクとして仙台に駐在。2012年より中国総局長として３年間北京駐在。2014年度ボーン・上田記念国際記者賞受賞。著書に『習近平の権力闘争』（日本経済新聞出版社2015年）、『習近平帝国の暗号2035』（同2018年）。

講演者の演題・プロフィール（登壇順）

西山　明宏（朝日新聞中国総局記者）

演題：**ゼロコロナの自縄自縛　中国経済の現場から報告**

1983年高知県生まれ。一橋大学社会学部卒。2006年に朝日新聞社入社。京都や福井の地方総局、経済部や政治部で取材。16～17年に北京で語学留学。20年９月から中国総局で中国経済全般を担当している。

水田　賢治（日本貿易振興機構上海事務所所長）

演題：**中国ビジネスの現状と今後の課題**

1992年に日本貿易振興会（当時）に入る。95年に香港で約１年、中国語の研修、99年～2006年まで１回目の上海駐在。その後、2017年から20年９月まで大連駐在、20年９月より、現在２回目の上海駐在。

池添　洋一（伊藤忠（中国）集団董事長・中国日本商会会長）

演題：**次世代の日中関係発展のために**
―中国ビジネス30年の経験から―

徳島県徳島市生まれ。大阪外国語大学インドパキスタン語学科卒業後、伊藤忠商事株式会社入社。北京語言学院で中国語を学び、北京大学経済学部に留学。1991年より北京･上海･香港での駐在を経験、現地法人社長を歴任、中国スペシャリストの道を歩む。2011年伊藤忠（中国）集団有限公司総経理就任。世界最大の華僑コングロマリット、タイ･チャロンポカパングループへの投資（14年）、中国最大の国営金融・産業コングロマリットCITIC Ltd.(中信股份)への投資(15年)という大型案件を相次いで手掛ける。15年、伊藤忠商事株式会社執行役員就任。19年、伊藤忠（中国）集団有限公司董事長就任。現在上海伊藤忠商事有限公司董事長、伊藤忠商事（香港）有限公司会長を兼任。22年、中国日本商会会長就任。